

★すべてアンケートの表記のままです。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 5月

事業所名 児童発達支援センターすくすくのびのび園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	30	3	・子どもの(人数の)上限を定めている。	・利用者が増えているので療育室だけでなく、運動用の遊戯室等もチーム間で時間調整しながら利用するなどして、活動が制限されないようにしています。
	2 職員の配置数は適切である	28	5	・それぞれの職員の経歴や資格を生かせる配置を心掛けている。 ・職員が休みの時は応援職員が入る。 ・職員の急な休みがあっても対応できるフリーの職員がいる。 ・欠員が続き十分な療育ができなかったため、年度始めから欠員の無い状態が望ましい。 ・運営上の工夫をしているが心理・療育・事務の職員数はさらに欲しい。	・条件にあった応募者が無いため欠員がありましたが、発達支援事業全体でカバーしやすい体制を組みました。 ・欠員が生じた状態で新年度スタートとなってしまった場合には、フリー職員等でカバーしながら、できるだけ早期に欠員補充を図っています。 ・どのチームの運営にも応じられるようフリー職員が務めています。 ・利用者数の増加に伴う業務の増加については、職員配置と業務改善の双方の面からより良い運営となるよう努力を続けています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	28	5	・支度の場所、作業を行う場所の区切りがある。 ・余計なものは除き、目に入る刺激の調整をしている。 ・遊具等の設置はケガや事故が起きないように配慮している。 ・療育室の刺激、情報量の統制が工夫されていると思う。 ・屋上へ行くには階段のみでエレベーターは3階までとなっている。構造上の問題は必要に応じて職員の対応で補っている。	・元々児童用の施設ではなかったこと、老朽化がみられること等制限があるので、限られた条件下で安全、快適に過ごせるよう配慮を継続します。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	32	1	・常に除菌に心掛けてきたので ・清掃されていて常に清潔。 ・こまめな清掃がある。	・職員全員で感染症拡大防止対策に積極的に取り組んでいます。 ・清掃業者との連絡を密に行っていますが、今後も継続します。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	28	4	無回答1 ・限られた業務時間ではあるが、運営の改善については全員で共有できるように機会を設けている。 ・会計年度の職員にもパソコンは必要だと思う。 ・各チーム、関係職員内ではできているが、「広く」と言うことができないうと思う。	・チーム、個人により受け止め方が異なる点は全体での共有を図っていきます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	30	2	無回答1 ・HPを各自確認することまでで止まっているように思う。	・保護者の皆様の意見とそれに応じて改善できる事項を資料とし、具体的に日々の業務に生かせるよう取り組んでいます。このプロセスを全体で共有することが今後の課題であると理解しています。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	31	1	無回答1 ・HPには公開している。	・ホームページで公開するとともに、保護者懇談会等で業務改善内容等について説明しています。この内容とプロセスについて、限られた業務時間の中でいかに職員間でより一層周知・共有していくか工夫を続けます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	26	6	無回答1 ・第三者評価を貴重な機会ととらえ、活用している。	前回令和元年度の評価では、チーム間のプログラムや職員の技術の共有が課題であると指摘がありました。これを受け、チーム間での教材やプログラムの共有、フリー職員による支援方法の伝播や標準化を意識しています。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	29	3	無回答1 ・作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の先生による研修に参加した ・研修の機会をもっと多くしてほしい。療育担当は午後から等配慮してほしい ・職種・資格ごとの研修があると良い。	・職員の参加しやすい時期や時間帯に配慮し、職場内研修を実施しています。 ・第三者評価の指摘を踏まえ、経験豊富な講師や職員の知見を活用し、職員が参加しやすい時間帯の研修を今後も続けて参ります。 ・外部研修は参加しやすい時間帯とは限らないため、受講する職員を送り出す体制を組みます。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	30	2	無回答1 ・話し合いが密に行われている。 ・クラス職員、専門職員と連携し支援計画を作成している。	・お子様一人ひとりにかかわる様々な職種の職員が協力しチームとして計画を作成しています。ニーズの把握や支援の遂行についても、多職種の視点で考察しています。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	27	4	無回答2 ・発達(知能)検査を実施している。 ・発達検査だけではなく指導員でもチェックしやすいアセスメントツールがあるとよいかと個人的には考えている。	心理職員が実施する発達検査に加え、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が専門分野についてお子様の状況を把握し、クラスの職員も含めチームで共有しています。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	30	2	無回答1	ガイドラインの周知、理解、徹底、実践での活用については今後も取り組んでまいります。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	31	1	無回答1 ・お子様一人ひとりの支援目標を参照しながら日々の活動と療育の記録を作成するよう努めている。	・どのお子様についても、支援目標をチームの職員全員で意識できるよう、日々の療育の振り返りを行い、達成点と課題を把握し、次回の活動に反映できるよう努めています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	31	1	無回答1 ・立案は各チームのリーダーが案を持ち寄り、全チームリーダーが一緒に行っている。これにより様々な観点から活動案を考えられるよう、かつチーム間のギャップが生じないよう工夫している。	・クラスごとの活動案は最終的に療育会議の場で全体で確認し、内容を共有できるようにしていますが、今後も継続していきます。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	31	1	無回答1 ・毎年クラス編成でクラスの子どもの姿は変わるためなるべく固定化はしていない。 ・作成する人をローテーションしている。 ・変化を付けるよう意識している。 ・チーム職員全員で検討し、固定化しすぎず変化のある活動になるよう心がけている。	・チーム内の検討に加え、チームを超えて療育会議で検討することで、内容が固定化しないように努めています。
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	31	1	無回答1 ・チームで検討して作成し、計画を共有している。	・児童の発達段階や課題に応じ、個別に活動できる部分と、小集団での活動を組み合わせた計画を作成しているため、継続します。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	32	1	・打合せしている。 ・子どもひとり一人がねらいに沿えるよう打合せを大切にしている。	・当日のプログラムの活動内容ごとに子どもの座席の位置や教材の掲示の順番、タイミング等を資料化し、職員間でその日の活動の意図を十分把握してから療育に臨むようにしています。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	32	1	・共有し次回の活動に生かしている。 ・振り返りしている。 ・反省点、良かった点を次回に生かせるようにしている。	・複数の職種の職員でチームを構成し支援していく方法が当園の方針です。この方針に沿って様々な視点で支援を振り返り、評価し、次の支援に生かせるよう取り組んでいます。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	32	1	・子どもごとの記録有 ・子どもの様子だけでなく、保護者の皆様とお話した内容についても記録し、親子通園の良さを生かせるように工夫している。	・その日の活動を振り返りながら記録をつけ、時間の効率化を図るだけでなく、チーム全体の検証と改善案を反映できるような記録作成を心掛けています。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	30	2	無回答1 2・支援計画について話し合いを行うことにより、定期的に見直している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	28	4	無回答1 ・セルフプランが増えているので相対的にサービス担当者会議が少なくなっている。 ・他事業所がより参加すると良い。話し合いができると思う。	・児童発達支援センターとして併設の相談支援ひまわりと連携し、サービス担当者会議の充実を図り、お子様の支援に反映させるよう取り組んでまいります。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	31	1	無回答1 ・保健センター、保育課、子育て支援課、子ども家庭支援センター等との連携を心掛けている。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	31	1	無回答1	・医療的ケアが必要なお子様はサービス利用計画の作成をお勧めし、関係機関との連携や会議等必要に応じて開催しています。今後もこれを継続してまいります。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	28	3	無回答2 ・わからない ・一部改善すべき点がある。 ・必要なお子様については、主治医からの意見書や指示書をもったり、緊急時の対応マニュアルを整備する等して安全に利用いただけるよう努めている。	・連絡体制を整えていますが、個人情報も含まれるため情報の共有は必要な職員のみとしています。個人情報や保護者のお気持ちへの配慮と、園として医療的ケアが必要なお子様への理解や対応のスキルアップの方法を含め一層検討してまいります。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	31	1	無回答1 ・感染症対策のため件数は少なくなっているが、園訪問に行くなどして情報の共有を図っている。	・発達支援事業の職員が引継ぎや訪問を実施することは、限られた業務時間では日時の調整等難しいことありますが、文書や電話等の活用を含め柔軟に考え、相互理解を図ることを続けます。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	29	2	無回答2 ・希望があれば小学校や特別支援学校と卒園後の引継ぎを実施している。	・感染症対策のため件数は少なめですが、就学先との連携は希望に応じて実施しています。 ・保育所等訪問支援事業も開始したため、発達支援事業での移行支援と合わせて保護者の皆様にお伝えしてまいります。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	26	5	無回答2 ・他区の発達支援センターの研修や都の研修に職員が参加している。	・感染症対策を求められる状況ではありますが、都、他区、専門的機関での情報収集と研修受講を継続します。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	16	14	無回答3 ・利用者の多くが幼稚園や保育園へ通っているため、当事業所では活動をする機会を設けていない。通園先との連携は園だよりの配付や訪問等密に実施している。	・通所されているお子様の多くは保育所やこども園等を利用し、交流している実態です。 ・お子様が未就園の場合は就園や地域交流のご相談に応じます。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	24	7	無回答2 ・相談支援事業担当の職員が当センターを代表する形で参加し、情報や懸案事項を全体に報告している。	・相談部門職員が積極的に参加しています。地域の子どもたちを取り巻くこととして、職員全体での共有を一層図ってまいります。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	31	1	無回答1 ・必要に応じて個別に保護者の皆様と伝え合う機会を持っている。	・保護者の皆様のお話の内容により、各職種の職員がお話を伺いお子様に関する共通理解を図っています。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	31	1	無回答1 ・感染症流行による制約はあるが実施している。 ・一部限定的にしか行っていない。	・職員が家族支援や、児童への関わり方について保護者が振り返るペアレントトレーニングについてさらに学ぶ機会を設け、支援の内容を高めることに努めます。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	31	1	無回答1	・入園オリエンテーションや契約の折りの説明、自己負担分請求の折りなど、配付物も用いて丁寧な説明を心掛けています。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	31	1	無回答1 ・面談を設け、保護者の皆さまにご説明の上同意をいただきサポートしている。	・個別支援計画の面談の折り、各職員が児童発達支援ガイドラインに基づく計画であることと、内容を漏れなくご説明できるよう今後も継続します。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	31	1	無回答1 ・定期的な面談だけでなく、必要に応じて臨機に面談を行っている。	・定期面談を実施しています。他にも電話、お手紙なども含めタイミングを逃さずご相談に応じます。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	30	2	無回答1 ・感染症対策との両立が難しいが、保護者会、研修会など可能な形を模索し実施している。	・父母の会の活動は感染症対策のため制約がありますが、ZOOM研修の講師仲介など可能な形でサポートを続けています。 ・感染症対策と保護者の皆様の交流の場の確保の両立を図れるよう工夫してまいります。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	31	1	無回答1 ・相談があった場合、すぐに対応できるよう動くようにしている。	・発達支援事業と相談支援事業の両部門で、多様なご相談にもっとも適切な対応ができるよう連携しています。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	31	1	無回答1	・年間計画、月々の園だより、クラスだよりで情報発信しています。感染症拡大防止の対応等はこまめに掲示や配付物でお知らせしています。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	31	2	・細心の注意を払っている。	・新任研修、全職員対象の研修を活用し園で起こりうるリスクを想定した討議を実施していますので、今後も継続します。
39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	31	1	無回答1	・各ご家庭のニーズ等に応じた対応を心掛けていますが、今後も継続いたします。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	19	13	無回答1 ・更に広くPRしてもよいと思われる。 ・行事が無い。 ・感染症等の影響により、機会が設けられない状況である。	・地域の保護者、事業者、学校関係者、関係機関などが一堂に会するイベントを継続してきましたが、現在休止中です。冊子発行や目黒区のホームページでの情報発信を継続しています。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	28	4	無回答1 ・マニュアルの整備は必要 ・避難訓練は定期的実施しているが、防犯は各自の判断、意識によるところが大きく、マニュアルや研修の機会が無いように思う。 ・マニュアルが古い。見直し必要。	・感染症対策についてはマニュアルを整備、更新し訓練を実施しています。 ・他のマニュアルも策定していますが、事業継続化計画に取り込み、更新していくことを課題にしています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	32	1	・集団療育クラスの全園児が訓練に参加できるよう計画し、実施している。	・欠席等のため訓練に参加できない場合のフォローを具体化します。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	32	1	・看護師が対応。 ・クラスにファイルを作り共有している。看護師と連携・共有している。	・健康や体調に不安のあるお子様については、医療機関からの情報も含め丁寧に伺い、関係者が把握しています。安心して活動していただけるよう今後も継続します。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	32	1	・利用開始の折りに園長、クラス職員、栄養士が面談し聞き取っている。	・医師の指示書に基づき、栄養士、クラス職員をかなめに厨房と確認することを継続します。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	31	2	・朝の打ち合わせでの報告・共有とともに記録し、分析している。	・療育だけでなく全職員が危機管理の意識を持てるような書式を検討しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	31	2	・新任研修・夏季研修で実施している。	・対応が難しいお子様にも、職員が協力しあい適切な対応ができるよう職員の育成を継続します。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	26	5	無回答2 ・利用契約・説明時に説明。契約書にも記載している。	・日常的にはイメージしにくいことですが、保護者の皆様には契約の折りに、職員には研修を利用して説明しています。親子通園の運営形態のため必要を感じる場面がない実態ですが、権利擁護の視点から定着を図ります。